宗教とは何か

【2】宗教探索の旅

2）仏教　身延山

2016年4月29日（金）

【1】はじめに　１月　１日（金）
【2】宗教探索の旅
　１）神道　お伊勢まいり　２月27日（土）
　２）仏教　身延山　４月29日（金）
　３）キリスト教　（東京）　６月
　４）天理教　（天理）　８月
　５）イスラム教　（　　）　10月
【3】走れ　42．195km
　１）訓練状況　５月
　２）結果　１１月
【4】お遍路さんの様に　徒歩巡礼の旅
　１）武田勝頼を偲んで　５月１日（日）
　２）大月～富士吉田～河口湖　８月
　３）大月～都留～秋山　１１月
【5】サムシング・グレート
　１）それって何？　３月１２日（日）
　２）宗教とサムシング・グレート　９月
【6】まとめ　12月

1．宗教探索の旅の前に
仏教の勉強を始めた頃（3月中旬）、一冊の本と出合いました。
小生にとって、あまりにも衝撃的でありました。
“今日が人生最後の日だと思って生きなさい　ホスピス医・小澤竹俊著”
この本は2800人の末期患者を看取ったホスピス医師が教える
『人生にとって大切なこととは』です。
余命少ない方々の究極の最後の姿、考え方、言葉を伝えています。
読み終わった時の切実なる重い思いは今も残っています。

『今日が人生最後の日だったら」と想像し、もし「やっておかなければ、絶対に後悔する」ということがあれば、健康なうちに手をつけておいてもよいかもしれません。』
小生もこの本を読んだ後“今日が人生最後の日だったら”と思うようにしています。
１日１時間１分が貴重になり、物事を深く考える様になりました。

『ゆだねる覚悟を決めた患者さんからは、怒りや悲しみ、焦りなどが少しずつ消えていきます。そのためには、ゆだねることのできる相手が必要ですが、それは必ずしも「人」でなくてもいいと私は思います。
これまで私か看取りに関わった患者さんの中には、自然が大好きで「自然が常に自分を守ってくれている」と言っていた方や、信仰心が篤く、「神様が守ってくださっているから大丈夫。何も怖くありません」と言っていた方もいらっしゃいました。
いずれにせよ、ゆだねる相手をしっかりと信じることができれば、たとえ明日が人生最後の日だとしても、穏やかに、幸せに過ごすことができるのではないかと、私は思います。』
宗教の神髄を突く言葉だと思いました。ここまで深く神様を信じることができる事がたいへん羨ましく思いました。

『苦しみは、決して「悪い」だけのものではありません。
もちろん、苦しみを解消しようと努力することも大切ですし、生きていれば、ときには苦しみから逃げたくなることもあるでしょう。
しかし、人が真の意味で「よく生きる」ためには、苦しみと向き合い、そこから学ぶことが不可欠だと、私は思います。』

小生も苦しみからいつも逃げようとしています。できるだけその様なことが無い様に“修行”をしていますが、長距離ウォーキングやジョギングなどの体の苦しみには耐える事ができるようになってきましたが、怒り・屈辱・劣等感・悲しみ等の心の苦しみには耐えるだけの強さを持っていません。

これを解決できるヒントが仏教にあることを信じ、探索の旅に出ます。

２．今回の旅の目的
仏教の中の主要宗派日蓮宗。
身延山は日蓮教団における最高の聖地であると位置づけられており、日蓮の遺骨は歴代の法主（住職）により、日蓮の遺言通り今日まで護られている。
その聖地を訪ね仏教とは何か、「良く生きる」ためには、について自身の五感と足で確かめ自分のものとする。

３．仏教とは
１）難しく言うと （インターネットから）
（１）概要
仏教（正字体：佛教、英語：Buddhism）は、インドの釈迦（ゴータマ・シッダッタ）を開祖とする宗教である。キリスト教・イスラム教と並んで世界三大宗教の一つ。一般に仏陀（目覚めた人）の説いた教え、また自ら仏陀に成るための教えであるとされる。
仏教の世界観は必然的に、仏教誕生の地であるネパールの世界観である輪廻と解脱の考えに基づいている。人の一生は苦であり永遠に続く輪廻の中で終わりなく苦しむことになる。その苦しみから抜け出すことが解脱であり、修行により解脱を目指すことが初期仏教の目的であった。
仏像や仏閣などは仏教が伝来した国、そして日本でも数多く見られるが、政治的な目的で民衆に信仰を分かりやすくする目的で作られたとされる。開祖の釈迦の思想には偶像崇拝の概念は無かった。

（２）輪廻転生・六道・仏教と神
仏教においては、迷いの世界から解脱しない限り、無限に存在する前世と、生前の業、および臨終の心の状態などによって次の転生先へと輪廻するとされている。部派では「天・人・餓鬼・畜生・地獄」の五道、大乗仏教ではこれに修羅を加えた六道の転生先に生まれ変わるとされる。生前に良い行いを続け功徳を積めば次の輪廻では良き境遇（善趣）に生まれ変わり、悪業を積めば苦しい境遇（悪趣）に生まれ変わる。
また、神（天）とは、仏教においては天道の生物であり、生命（有情）の一種と位置づけられている。そのため神々は人間からの信仰の対象ではあっても厳密には仏では無く仏陀には及ばない存在である。仏教はもともと何かに対する信仰という形すらない宗教であった。時代が下るにつれて開祖である仏陀、また経典に登場する諸仏や菩薩に対する信仰を帯びるようになるが、根本的には信仰対象に対する絶対服従を求める態度は持たない。仏教における信仰は帰依と表現され、他宗教の信仰とは意義が異なっており、たとえば修行者が守るべき戒律を保つために神や霊的な存在と

の契約をするという考えも存在しない。ただしこれらの内容は民間信仰においては様子が一変していることが多く、それが仏教を分かりづらくする原因の一つとなっている。

(3)日本の仏教

日本は統計的にみて約 8470 万人が仏教徒であり、全世界で 5 億数千万人程度が仏教徒とされていることを考慮しても、やはり一大仏教国である。約 7 万 5000 の寺院、30 万体以上あるといわれる仏像は、他の仏教国と比べても桁違いに多い。世界最古の木造寺院法隆寺があり、最古の仏典古文書も日本にある。一方、現代の日本人は特定の信仰宗教、宗教観を持っていないものが大多数であり、自らを仏教徒と強く意識する機会は少ないがブリタニカ国際年鑑の 2013 年度版では 99%の日本人が広義の仏教徒とされている。

〇〇宗の〇〇寺と言うように現在は一寺一宗だが、奈良時代まではひとつの寺にいろいろな考えの僧侶がいた。同じ分野を学ぶ僧侶たちが一つの集団を作りこれを衆と呼んでいた各衆には大学頭や小学頭と呼ばれる人がいて、勉強する僧侶を指導した。今の総合大学のような感じ。

これが平安時代になると、一つの衆だけで一つの寺を使用するようになり、衆より〇〇を宗とする派閥つまり宗派の存在が大きくなり、一寺一宗となった。

系　統	宗派名	開祖・別名　生年–没年
奈良仏教系	法相宗	
	律　宗	
	華厳宗	
密教系	真言宗	空海　弘法大師　774–835
密教＆法華系	天台宗	最澄　伝教大師　767–822
法華系	日蓮宗	日蓮　立正大師　1222–1282
浄土系	浄土宗	源空　円光大師　1133–1212　法然
	浄土真宗	親鸞　見真大師　1173–1262
	融通念仏宗	良忍　聖應大師　1072–1132
	時　宗	智真　証誠大師　1239–1289　一遍
禅　系	臨済宗	栄西　千光法師　1141–1215
日本には禅宗という宗派はありません。	曹洞宗	道元　承陽大師　1200–1253
	黄檗宗	隠元　真空大師　1592–1673

（4）日蓮宗

日蓮宗の宗祖、日蓮聖人は、貞応（じょうおう）元年（1222 年）2 月 16 日に現在の千葉県鴨川市に、漁師の子として生まれた。

日蓮聖人が生きた鎌倉時代は、飢饉や流行り病、天災などが相次ぎ、また幕府と朝廷の権力争いが続く混乱した時代だった。そんな中、幕府や朝廷の後ろ盾を得て多くの仏教宗派が教えを広める。ところが、世の中の混乱は一向に静まらない。為政者は加持祈祷に頼りっきりで民衆の生活を改善する努力を放棄し、一方の寺院は自らの特権にしがみつくばかり。もはや人々は現世の救いをあきらめ、来世に望みを託すしかないというありさまだった。

そんな現状に、この地域の名刹・清澄寺で出家し、勉学に励んでいた若き日の日蓮聖人は疑問を持つようになる。

「人を幸せにするはずの仏教宗派がたくさん咲き乱れているのに、なぜ世の中は更に乱れるばかりなのであろうか。そもそも一人のお釈迦さまの教えであるはずの仏法に、なぜこれほど多くの宗派が存在し、その優劣を争っているのだろうか――」。

そして、本当に人々を救うことのできる、真の仏法を求める旅がここから始まる。

このとき、世の安穏を実現する教えを捜し求めていた日蓮聖人は、仏法の全てを知り尽くしたいという使命感にあふれていた。そのことは「私を『日本第一の智者』となし給え」と２１日間、不眠不休で寺の本尊・虚空蔵菩薩に願を立てたというエピソードからも伺える。

２）仏教を簡単に言うと （月刊誌致知から）

仏教と聞いただけでも、とても難しいものと言うイメージを持ってしまう。その「衆生無辺誓願度」という言葉について、泰道先生は『雑宝蔵経』という仏典にある譬え話を使ってよく説明してくださったものです。それは一羽の小鳥を巡る深いお話です。

餌を探しに来た一羽の小鳥が道に迷ってしまいます。すると、動物たちが現れて、食べる物や眠る場所を与えて介抱し、小鳥はいつしかその山に暮らすようになりました。

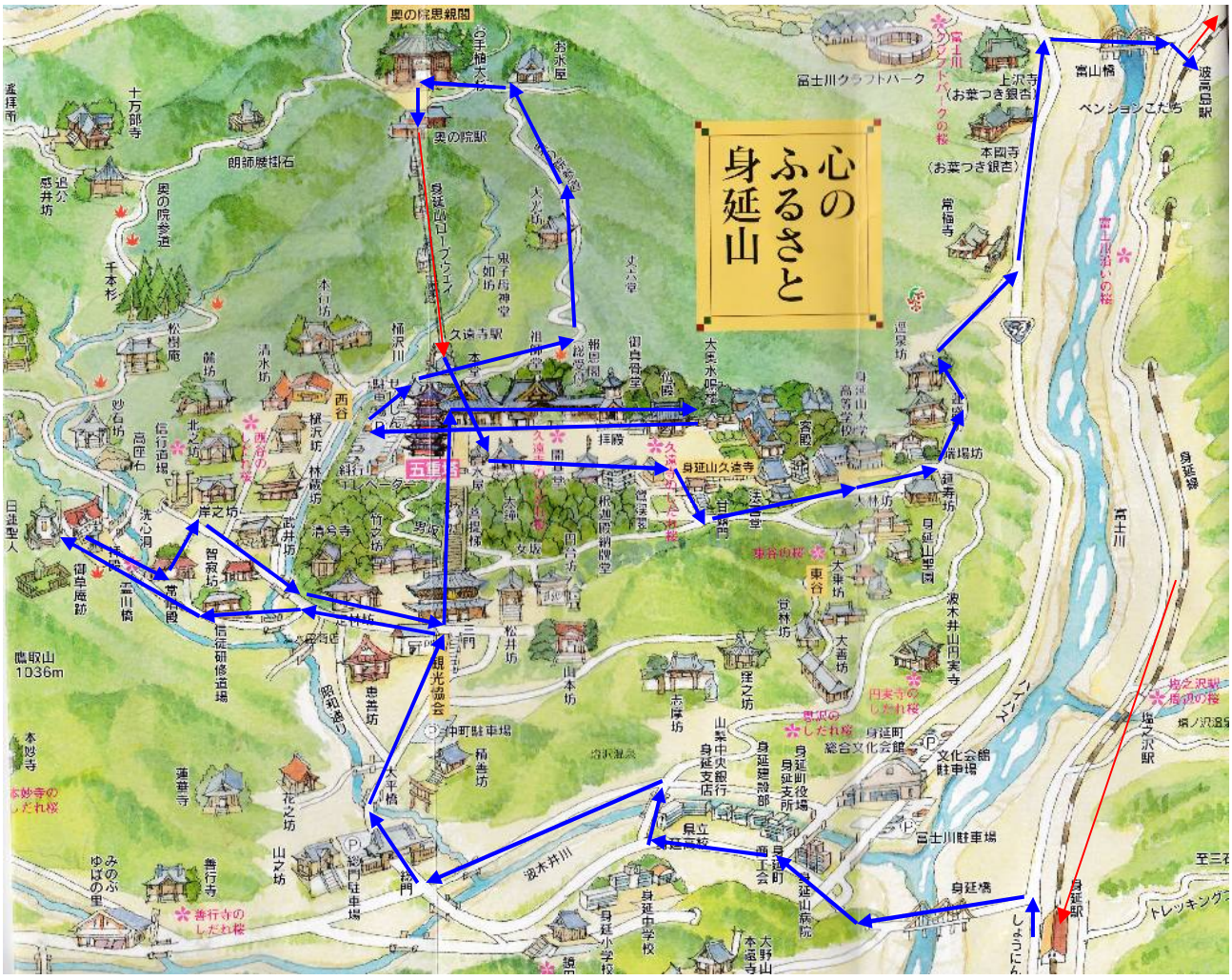
ところが、ある日、風に吹かれた木々が擦れ合ううちに火がおこり、あっという間に火は森全体に燃え広がってしまうのです。最初こそ、ライオンや象などの動物たちも火を消そうとしましたが、どうにも手に負えなくなって皆山から避難することにしました。

ところが、ふと振り返ってみると、あの一羽の小鳥が近くの池に飛んで行っては羽に僅かな水滴を浸し、火にかけ続けているではありませんか。羽も真っ黒に焦げかけています。その様子を見た動物たちは、「無駄なことは止めよ。我われが力を尽くしても到底できないことなのに、あなたが数滴の水を羽に浸してかけたとしても、この火を消せるはずがない」と口を揃えます。ところが、小鳥は「私かいくら頑張ったところで火を消すことができないのはよく分かっています。けれども、私はこの森にお世話になりました。お世話になった森が火で無くなることをほっとけません。私は自分の命がある

限り、水をかけ続けます」と答えたというのです。
それを聞いた動物たちは、「あの小さな小鳥でさえ頑張っているのだから、私たちも努力しないわけにはいかない」と、引き返してきたのでした。その様子を神々がご覧になって火を消してくださった。
そういう譬え話です。仏典には、火を消そうと願った小鳥こそ、お釈迦様の前世であったと説かれてあります。
この話には私たちが学ぶべきことが多くあります。この小鳥のように無駄なことだと周囲から言われてもやむにやまれぬ気持ちで何かを実践し続けていくと、その姿を見た人たちがいつの間にか感化され、一緒に頑張り始めるのです。山火事は神々によって消されたとされていますが、これはきっとその願いが次の世代へと受け継がれ、やがて現実となることを意味しているのではないかと思います。

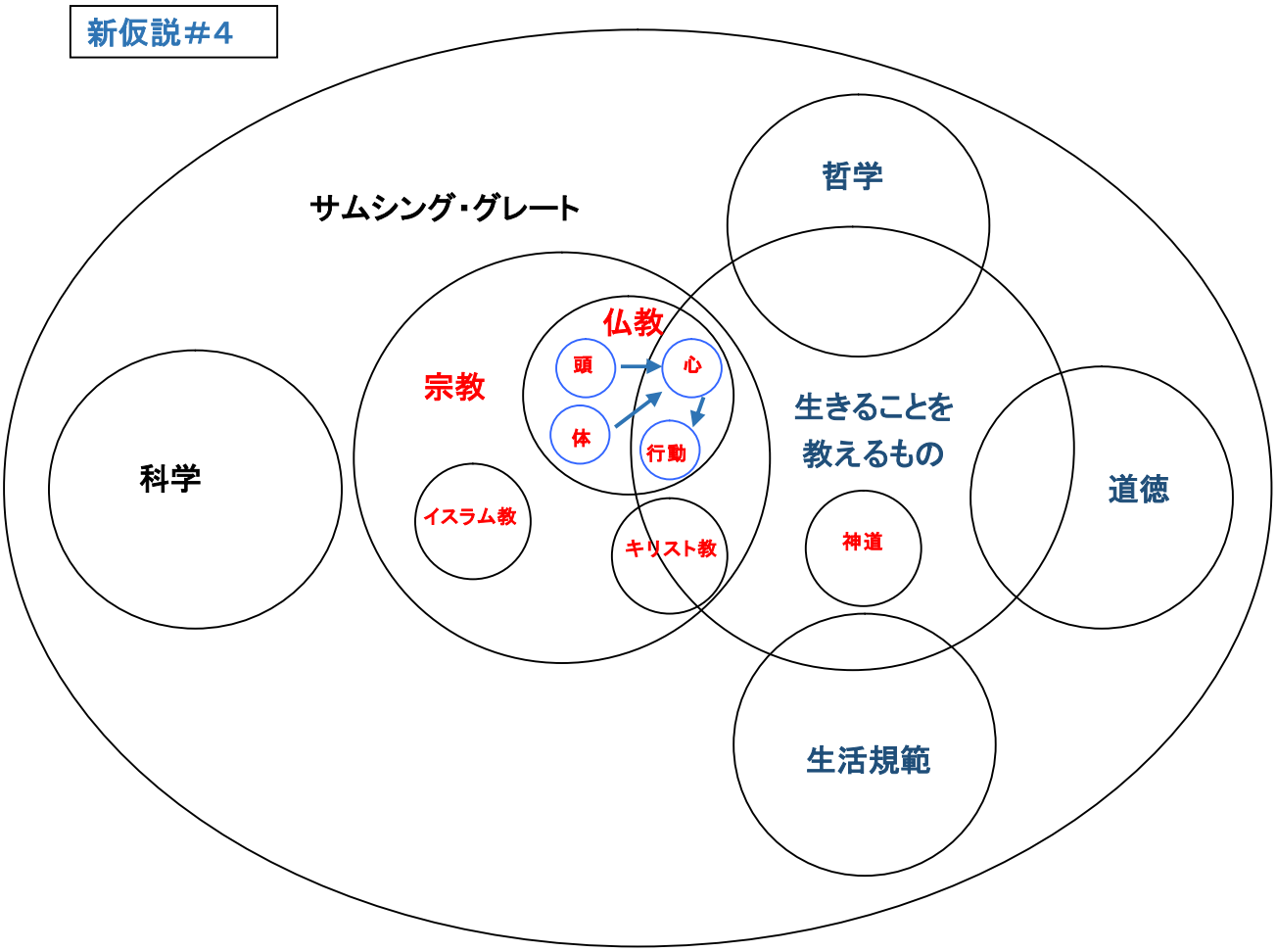
4. 行動内容

5時53分：大月駅出発　中央本線
8時01分：身延駅着　身延線
8時13分～17時20分：身延山徒歩旅　約18km
身延駅→久遠寺→身延山奥の院→久遠寺→波高島駅
18時03分：波高島駅発　身延線
20時33分：大月駅　中央本線



５．今回の結論

仮説＃3に青部分を追加



仏教の教え

頭で知識を吸収する → 心に信念を持つ → 人として正しい行動をとる

体を鍛える ↗

6. 身延山　徒歩の旅レポート

8時01分
身延駅着。小綺麗で清潔感あふれる駅。
さすが、身延山の玄関口である。
JR東海の車両も綺麗である。

身延山玄関口　身延駅

8時13分
5km先の身延山久遠寺を目指して出発。
身延駅前の商店は、こじゃれていて清楚な
建物が並んでいる。センスが非常に良い。
旅館は思わず泊まりたくなる様な雰囲気。
ここはなんと時計屋さんです。
ここはなんと山梨県民信用組合です。
身延町の行政の徹底ぶりと日蓮様の
教えが浸透しているのだろう。

身延駅前の商店街

8時22分
身延橋付近。
あれが富士川と身延山だ。
絵になる景色だ。

身延橋と富士川と身延山

8時33分
歩行者用トンネル。ちょっと不気味。
早くも宗教じみてきた。

歩行者用トンネル、不気味

8時42分
松葉食堂焼肉センター。
名前が良いですねえ。
でも入りたくねえ。

名前は良いが入りたくない

8時52分
外れて裏道田舎道を歩く。
塩沢橋と遥か彼方の身延山。
波木井川は美しくのどか。
これぞ田舎の風景。

これぞ田舎の風景

アーチ橋と鮮やかな黄みどり色

9時08分
総門近くのアーチ橋。
蔦が絡まる橋。
周りの木々の黄みどり色が鮮やかだ。

9時11分
総門着。
門の木が歴史を感じさせる。神々しい。
『国道 52 号線に面した身延山の玄関で、参詣者がまず
くぐらなければならない関門。日蓮聖人御入山の折出迎え」の
南部実長公と対面した「逢島」の遺跡に、寛文 5(1665)年 28 世日貿
上人によって建立。扁額の「開会関」は 36 世日潮上人の筆により、
また、入って左手の石垣には、聖人が御入山の折に休息された
と言われる自然石が残っている』

歴史を感じさせる総門

9時18分
久遠寺目指して坂を登っている。
稲荷大明神。これぞ神仏一体。
それにしても鳥居の赤が鮮やか。

赤が鮮やか稲荷大明神

9時27分
魅力的な門前町。結構きつい坂が続く。
昔の人は土の上をわらじで歩いたのだろう。
身延山が近づいた。

魅力的な門前町と身延山

9時35分
三門着。
壮大で威厳がある。
『本堂の真正面に位置し、空･無相･無願の三解脱門を経て涅槃に
至る仏教の摂理に基づき、本堂を涅槃に擬し、その正面の門を
三解脱門に例え三門と称している。
日本三大三門のひとつに数えられる身延山の三門は、間口 23m、
奥行き 9m、高さ 21m の総けやき造り。
楼上には、16 体の羅漢像が奉安されている。
創建は 1642 年、数度の火災で焼失し、現在の三門は明治 40
(1907)年の再建。』

壮大で威厳のある三門

9時43分
日蓮聖人御墓入口。三昧橋。
神々しくて大きく成礼をして進む。

日蓮聖人御墓入口、三昧橋

身延山研修道場。素晴らしい。
TS技術部も研修道場を
2017年に相模原に設立予定。

身延山研修道場

日蓮聖人の御墓参道を行く。
さっきから鳥肌が立っている。
この辺一体、霊気を感じる。

御墓参道、両脇に魔よけ像

9時58分
日蓮聖人の御墓。
神々し過ぎる。
神道では自然を感じる。仏教では人を感じる。
人が聖人するとここまで気配を支配することができるのか。
“心”の極みか？

日蓮聖人の御墓

10時10分
再び三門に戻り、いよいよ菩提梯（ぼだいてい）
『三門と本堂を真一文字に結ぶ287の石段からなる参道。高さ104m、天上に続くかのごとき急勾配の石段は、南無妙法蓮華経になぞらえて七区分されている。また、両側にそびえる老杉は仏法僧の繁殖地に指定されている。』

三門の先に菩提梯がある

菩提梯の下に来た。すごい迫力。
体力で登るのか、気力で登るのか。
高所恐怖症の小生、途中下を見ない様にする。

すごい迫力の菩提梯

10時16分～10時23分
スタート、ストップウォッチオン。
心臓破りとはこのこと。
階段の数も多いが一段一段の高さが高い。
かなり古いので段が凸凹している。

ゴール後、見下げるとゾ～

ゴール　7分12秒。廻りの人より若干早い。
心臓バクバク、膝ガクガク、酸素必要量に対し息が追い付いていない、胸の痛み大。
（この後遺症が次の工程の身延山登山に大きく影響することになる。）

見上げると美しい五重塔

見上げると美しい五重塔が迎えてくれた。
ここは山の中腹で本堂、祖師堂、仏殿等の主要寺院の建物がある。
久遠寺のしだれ桜が有名である。

ここで、身延山久遠寺を紹介
『久遠寺（くおんじ）は、日蓮宗の総本山。山号は身延山。
文永 11 年（1274 年）、甲斐国波木井郷の地頭南部六郎実長が、佐渡での流刑を終えて鎌倉に戻った日蓮を招き西谷の地に草庵を構え、法華経の読誦・広宣流布及び弟子信徒の教化育成、更には日本に迫る蒙古軍の退散、国土安穏を祈念した。
弘安 4 年（1281 年）に十間四面の大坊が整備され、日蓮によって「身延山妙法華院久遠寺」と名付けられたという。
日蓮は弘安 5 年（1282 年）9 月に湯治療養のため常陸の温泉と小湊の両親の墓参りに向かうため身延山を下ったが、途中、信徒であった武蔵国の池上宗仲邸（現在の東京都大田区本行寺）にて病状が悪化したため逗留し、６人の弟子「六老僧」を定めて、同地において同年 10 月 13 日に死去した。
「いづくにて死に候とも墓をば身延の沢にせさせ候べく候」との日蓮の遺言に従い、遺骨は身延山に祀られた。当地では足かけ9ヵ年の生活であった。』

久遠寺　全景Ⅰ

日蓮は“仏教の統一”と“現世を仏国土に”の二つを布教の目標にしたという。

久遠寺　全景Ⅱ

10時22分
本堂見学。建物が幾何学的に美しい。血液A型の人が設計？
『総坪数 970 坪、間口 32m、奥行 51m。壮厳なる天蓋、幢幡、吊灯篭に飾られた、身延山独特の佇まいに、9m に及ぶ須弥檀上の本尊一塔両尊四士を始め、ほぼ等身大の仏像 15 体が奉安されている。

幾何学的に美しい本堂

天井画は、日本画壇の重鎮加山又造画伯による勇壮な姿の墨龍。』

出典：インターネット

檀上

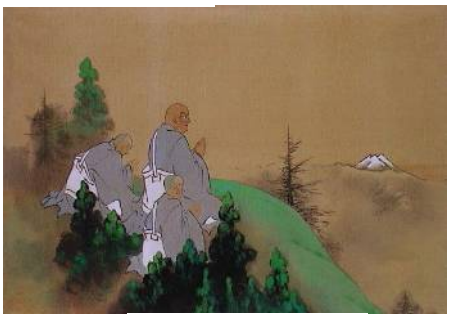
本堂の中、この神々しさは一体なんだろう。
人の魂か？
檀上の前で正座、祈りを込める。
柔道黒帯の小生にとって正座は得意技。
と思いきや3分でギブアップ。
座禅の体制で10分、思いにふける。
悟りの境地には程遠く、雑念が頭を過る。
天井を見上げると龍の天井画。
龍に喝を入れられた。

出典：インターネット

龍の天井画

10時47分
本堂～祖師堂～報恩閣～仏殿の内部を歩く。
廊下で全て繋がっている。この先の身延大学まで繋がっている？
所々で若いお坊さんとすれ違う。
皆 「コンチハ」 と元気で屈託のない挨拶。
気持ちが良い。日蓮宗の風習なのか。
身延大学の学生さんかもしれない。

出典：インターネット



身延入山の絵巻

長い廊下に日蓮聖人の一生を表わした日蓮聖人傳絵巻が
12枚展示されていた。
日蓮聖人の波瀾万丈の一生が描かれている。
先週、大月図書館で2時間予習したので深く理解できた。

11時17分
本堂に戻る。地下の宝物館に入る。
明治初期時代からの身延山の写真が飾られている。
西の叡山、東の延山と言われていたという。

『日蓮は泣ねども涙ひまなし』という名文があった。
解釈は以下の通り、日蓮聖人の大きな思いが伝わる。
『日蓮聖人は一切の衆生を救いたいと強く願っておられたが、当時は戦乱や天災が
続き人々は苦悩の中で暮らしていた。それが日蓮聖人にとっての大きな悲しみであり、
声に出して泣きはしないけれど慈悲の心によって涙を流されていた。』

奥の院登山道　入口

１１時４５分
いよいよ奥の院へ入山する。
地図によると所要時間2時間30分。
ロープウェイという手もあるが、修行の身であるため
自分の足を選ぶ。覚悟を持って出発する。

杉林の中の登り坂

１２時０８分
早くも登り坂きつい。
杉林が廻りを囲む。

近くに数百の超古い墓石がある。
合掌。

数百の超古い墓石

１２時３２分
大光坊着。休憩。
ここは奥の院までの中間地点。
登り坂は非常にきつかった。
汗と鼻水と涙（？）で顔は
ぐじゅぐじゅ。
藤の花に癒される。

中間地点の大光坊

１２時４５分
奥の院目指して出発。
オレンジ色が艶やかな花が咲いている。
何という花だろうか。
どんなに苦しい状態でも花に目をやる余裕は大切である。
いよいよ本格的な山道となった。

オレンジ色の花　君の名は？

１３時１８分
とんでもない急坂になっている。
１０m進んでは立ち止まっている。
一向に進まなくなっている。
本格登山は三年ぶり。
修行が足らない。

とんでもない急坂

水屋法明坊で休憩

１３時２８分
水屋法明坊着。
倒れこむように休憩。
心臓、胸、膝は菩提梯による後遺症で極限状態。
１０分休憩で出発。

途中、景色に目を移すと

１３時４７分
途中、景色に目を移す。ずいぶん登って来たもんだ。
遥か下に久遠寺、その先に富士川、その上に富士山。
景色に元気を貰った。
相変わらず１０m進んでは立ち止まっているが、
苦しみに慣れてきた。
楽しい事を考えて紛らわせば良いのだ。

奥の院からの雄大な景色

１４時０３分
奥の院着。
雄大な景色が待っていてくれた。
そして清々しい空気があった。
美しい富士の姿、悠々と流れる
富士川、凛とした五重塔のシルエット。
２時間１５分の修行の御褒美は
大きかった。
何故日蓮聖人は、この身延の山の中を聖地として
選んだ理由はこの景色にありや。

１４時０３分
奥の院。杉に囲まれた神々しい寺院。
『奥の院の思親閣とは、親を思う御堂
ということであるが、日蓮聖人は、
九ヶ年に亘る身延山での御生活の間
常にこの峰に登られて、両親をはじめ
師匠の追善供養を祈られたところから
名づけられたものである。』

奥の院　思親閣

日蓮聖人の御手植杉、威厳と数奇に
満ちている。

御手植杉

杉の中の日蓮様

杉の中の日蓮様に別れを告げて下山する。
合掌、感謝。

14時24分
山頂の身延庵で昼食をとり体力回復す。

15時00分
帰りはロープウェイにて久遠寺まで下山。
まだまだ徒歩の旅は続くので時間節約。
ロープウェイの所要時間6分。登りも同じ。

登りのロープウェイと行き合う

この6分720円のロープウェイと2時間15分0円の登山。2時間15分修行後の最高の景色。
現代は楽になった分、物事の価値観が薄れていく。

15時15分
再び久遠寺
改めて祖師堂を観るときらびやかで綺麗であった。

きらびやかな祖師堂

15時20分
久遠寺を後にして富士川に平行して身延駅より
2つ甲府よりの波高島駅に向かう。6kmの旅。
途中、身延の生活風習を味わう。

15時25分
身延大学に寄る。
『浜島学長メッセージ
身延山大学の深淵は、身延の山に入られ弟子・檀越の教育にあたられたことに求められます。
自らを鍛え、他者のため、世のために尽くす学び舎が山間部に位置する身延山大学であります。
山紫水明豊か、霊気あふれる身延の地で自己を見つめ、勉学に勤しみ、人生の師を探しに来てみては如何でしょうか。』
小生、もう少し大きくなったら是非入りたい。

出典：インターネット

身延大学　キャンパス

１５時３２分
身延の生活風習空間を歩いている。
白い寺院と白い雲と青い空と黄みどり色の木々の
コントラストがすばらしい。

白と青と黄みどりのコントラスト

ほーほけきょ　ほーほけきょ　うぐいすが鳴いている。

ざ～　ざ～　ざ～　お猿さんが3匹木から降りてった。

清楚な行学寮、身延大学の学生さんの寮かな。
（とうぜんお酒は飲んではいけないのだろうな）

清楚な行学寮

１６時２０分
１時間身延の生活風習空間を歩いている。
昔のお坊さんは何を考えながら歩いていたのだろう。
小生？考えが定まらない。
富士川が見えてきた。遥か先に富山橋がある。

富士川が見えてきた

１６時２５分
産宮神。なんと、ひしゃくが祀ってある。
そのいわれは
『その昔、祠近くに若夫婦が住んでおり難産で大変苦しんでいたとき、そこを通りかかった旅の僧に安産を願った。
僧はひしゃくを用意させると何やら呪文（お経）を唱えひしゃくの底を抜き水を通すと元気な男の子が無事誕生した。
以来、若夫婦は、ひしゃくを祠に奉納して祈った。
といわれている。』
歩いてみないと何事にも出会えない。

ひしゃくを祀る産宮神

１６時３２分
国道５２号線に出た。ゴールは近い。
ここから富士川沿を波高島駅に
向かう。

国道５２号線　ゴールは近い

富士川の富山橋を渡る

１７時０５分
富士川の富山橋６００ｍを渡る。
川幅はたいへん広い。
川の流れは急である。

１７時２０分
波高島駅にゴール。
超ローカルな無人駅である。
名は“はだかじま”←何と魅力的な
名前でしょうか。こら！喝！
１６時、１７時代は電車無、
次は１８時０３分甲府行。
のんびり待ちましょ。

ゴールの波高島駅

さて、今回の旅は９時間５分　１８ｋｍ走行。
超階段、急坂登山により体力消耗大。
ただし、精神は充実感で活力大。

今回の仏教の旅はとても魅力的で得るものが大きかった。
仏教については、何年も前から興味があり、
いろいろな本を読んだり、寺院を訪ねたりしていたが、
今回改めて、テーマを持って、仮説をたてて、ゆっくり
５感と足で味わうことにより深く理解することができた。

仏教は人、特に日本の場合、お釈迦様ではなくて、
各宗派を起こした聖人、上人と呼ばれる人を崇拝するものと
確信した。

日蓮宗はまさしく人・日蓮そのものである。

7．グルメ情報

1）お昼ご飯の部　14時24分

ロープウェイ奥の院駅の身延庵に入る。

身延名物のゆば丼（￥750）と竹炭黒龍うどん

（￥730）をたのむ。

ゆば丼、美味い！ゆばとたまごのとろみが最高。

半分食べて、推奨のポン酢を掛けると更にコクのある味。

竹炭黒龍うどん、珍味であるが美味い。

若干炭の味がする。

特徴はうどんの色がまっ黒。

両者食べ終わってみると充実感たっぷり。

ゆば丼と海藻汁

竹炭黒龍うどん

2）おやつの部　18時30分　車内甲府駅

喉がからから。疲労困憊。

キリン一番搾り、御当地赤ワイン、チーズあられ。

カンパ～イ　最高！電車が発車前にビール完。

甲斐大和で全て完。

後は家でお土産話といっしょに飲みませう。

８．まとめ

１）まとめ方のステップ

（１）旅の前に、これまでの自分の知識、文献、インターネットで、それぞれの宗教を事前調査した。

（２）総本山及び周辺を訪ね、自分自身の五感と頭と魂で感じ取った。

（３）旅後、以上から仮説を再検討した。

２）仮説と根拠

（１）仏教は宗教そのものである。

【根拠】

ａ．宗教とは、読んで字の如く「教えるのを宗とする」もの。
宗教には必ず教える人と教えられる人と材料がある。
・教祖がいる。
・教典がある。

ｂ．布教活動を実施している。

（２）日本では仏教について論じる時、宗派までさかのぼって論じる必要がある

【根拠】

ａ．宗派には必ず創始者（聖人、上人）がいて、思想、行動規範が異なる。

ｂ．宗派同志は、宗教論争等で合い受け入れない部分がある。

（３）仏教を深く信仰するためには、自分が仏教に何を求めようとしているのかを明確にし、それぞれの宗派を深く理解する必要がある。

【根拠】

ａ．自分自身で、思想、行動規範、歴史、具体的宗教活動を勉強する。

ｂ．仏教の場合、強制的な入信は危険である。

（４）日本人は仏教を信仰しようとも、根底には神道の精神がある

【根拠】

ａ．日蓮聖人は、鎌倉・比叡山などで修業し、仏法の真髄は「法華経」にあることを悟り、建長５年（1253）関東下向の途中、伊勢神宮内に参籠。
境内の井戸で潔斎し、ここで誓いを立て、伊勢神宮内宮に誓願。
この年に日蓮宗は立教開宗した。

（５）仏教は“生きることをおしえる”だけでなく、“人として正しい行動ができる様なる”ことを目指している。

【根拠】

a. 日蓮聖人は「自らの幸せのためにも、広く社会全体が平穏無事であるよう願い、そのような世の中になるために皆努力するべきだ」と主張した。

b. 日蓮聖人は混迷する国家の救済を目指した渾身の書『立正安国論』を当時の権力者・北条時頼に建白し、法華経を根本とした国づくりをするよう、命をかけて諫めた。

（6）仏教の一番良い所は“人として正しい行動ができる様なる”のあるべき姿、なるための手段を具体的に示している。（QCストーリに則っている）

【目的で述べた“仏教とは何か、「良く生きる」ためには“の答えとして】

“何のために生きるのか　稲盛和夫＆五木寛之著”より

『偉いお坊さんを十人比べてみたとします。その人たちは皆、若いころから修行を積み、ブッダの教えを一所懸命勉強して宗教的な知識を豊富に持っている。
ところが十人十色で、人柄は皆違うはずです。お坊さんでありながら、えげつない人もいる。威張りちらす人もいる。意地悪な人もいる。
どうしてなのだろう。
それは、単なる知識として得たものというのはまったく人格に影響を及ぼさないし、ましてや運命にも人生にも影響を及ぼさない。けれども、学んだことをこころの信念にまで高めた人であれば　つまりブッダの教えをこころの信念にまで落とし込んだ人であれば　それは人格にも大きな影響を及ぼしてくるし、その人の人生にも大きな影響を及ぼしているはずだからです。
もし同じようにブッダの教えを教わって、それをこころのいちばん奥底にある信念、もしくは良識とか理念、理性というものにまで落とし込んで、そこでブッダの教えを実行していこうと思っているのであれば、育ちや性格は違っていても、非常に柔和ですばらしい人格のお坊さんとなるはずです。そのお坊さんに会うだけで頭が下がるぐらいすばらしい人格を備えたお坊さんになっておられるはずだ。
ところが、知識としてブッダの教えを持っていて、話をさせたらすばらしいお坊さんでも、こころの深奥にまで教えが達していなければ、自然に頭が下がるということはないだろう、と思います。』

“仏教ってなんですか　池上彰著より

『愛や慈悲というと堅苦しいですが、やさしさや思いやりということです。自分の利益のためではなく、他人の幸せにつながるような言葉や行ないを普段から心がけること

で、どんなに局面でも、ポジティブな感情が先に生じるような癖がつけられるのです。
こうした心のトレーニングなら、今日からでも始められそうです。
ダライ・ラマ14世法王がおっしゃるように、仏教が追求してきた人間の心の機能やトレーニングは、信仰の有無にかかわらず教養として役に立ちます。世の中の一人ひとりが社会において経験を積んだ、何らかのプロであるように、仏教の僧侶は人間の心のはたらきと制御法に向き合い続けてきたプロなのです。逆境を乗り越えるために、その技術を活かさない手はありません。』

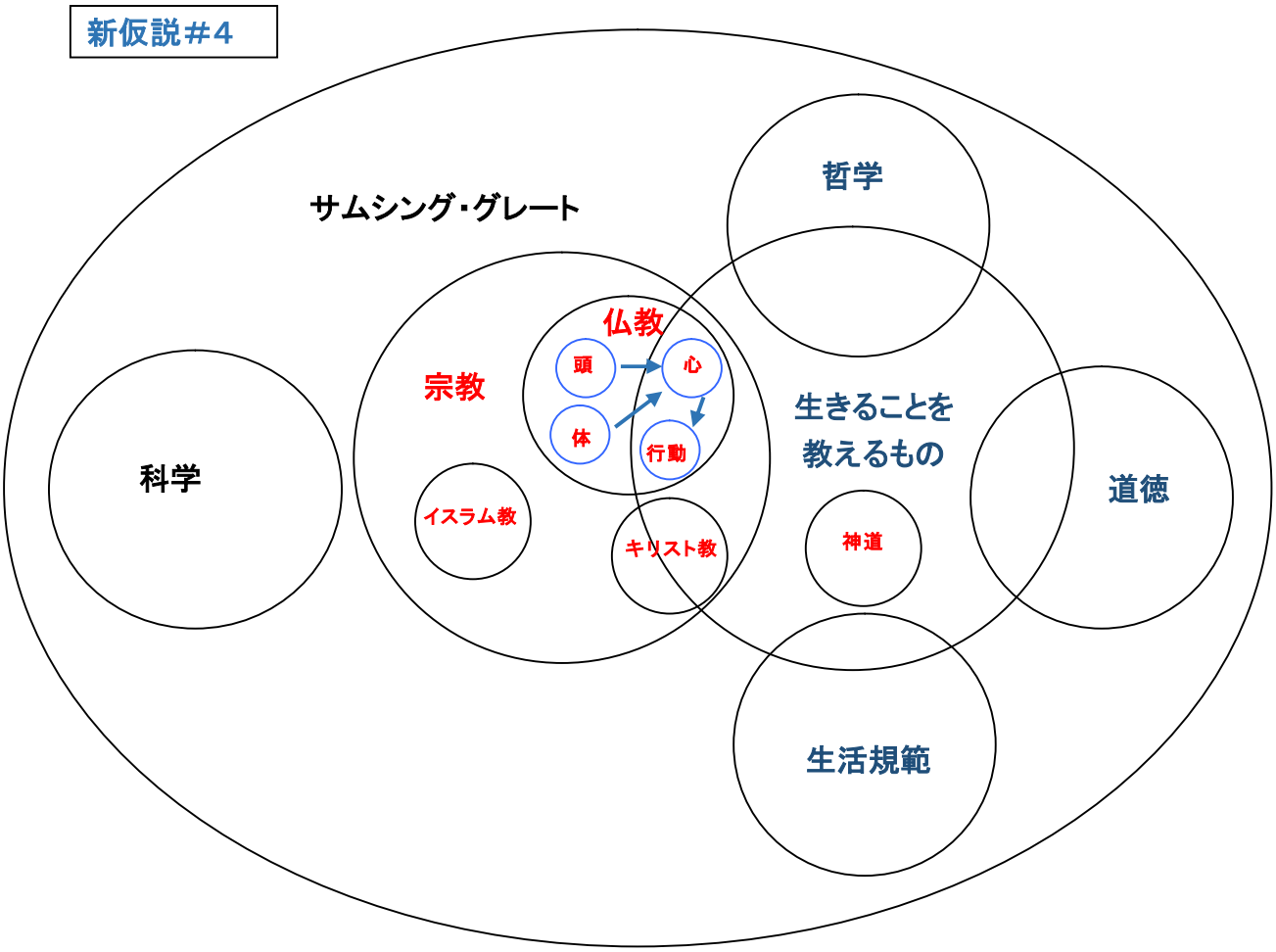
“禅の名僧に学ぶ生き方の知恵　横田南嶺著”より

『今日、「今北洪川」という名は一般にはほとんど知られていません。ありかたいのは鍵山秀三郎先生（イエローハット創業者）が洪川老師の「百萬典経、目下の灯」という言葉を講演でお話しくださったり、本の中で紹介してくださったことで、それで知られるようになってきました。これは「百万巻のお経を読んだとしても知っているだけでは役に立たない、それは太陽の下でロウソクを灯すようなものだ（何も意味がない）」という意味の言葉です。鍵山先生はこの言葉を「どんな優れた教えを学び覚えるよりも実践が大切である」というように理解をし、足下のゴミを拾う、身の回りをきれいにするところから始めなければならないという意味でお使いくださっています。』

仏教の修行の中に大峰千日回峰行がある。
奈良県吉野の大峰山で、往復４８キロ、高低差１３００m 以上の山道を１日１６時間かけて、１０００日間歩き続ける修行。
大峰山１３００年の歴史で達成したのはたったの２人という。
別の極限の行に挑んだ比叡山宮本祖豊住職の話 （月刊誌　致知12月号より）
『なぜそこまでしなければならないのかというと、自分の精神レベルを上げるためには自分の体を犠牲にしなければならない。それが行というものです。楽をして精神レベルが上がるものならそれに越したことはありませんが、レベルが上がるのに見合うだけの苦しみを自ら体験していかねければ、人間は一歩も成長しないのです。」』

3）新仮説図＃4

仮説＃3に青部分を追加



仏教の教え

頭で知識を吸収する → 心に信念を持つ → 人として正しい行動をとる

体を鍛える →

9．今後の進め方

他宗教調査を含め、更に調査、検討、考察を進めていく。

まだまだ、調査が足らない。

10．最後に

仏教は非常に奥深いものであり、まだまだ勉強が必要です。

ただし、あまり難しく考えずに、我々の日常の生活に照らし合わせて考え、行動すれば良いと思います。

今回、たいへん有意義だったことは、“頭・体・心・行動”に行き着いたことです。